

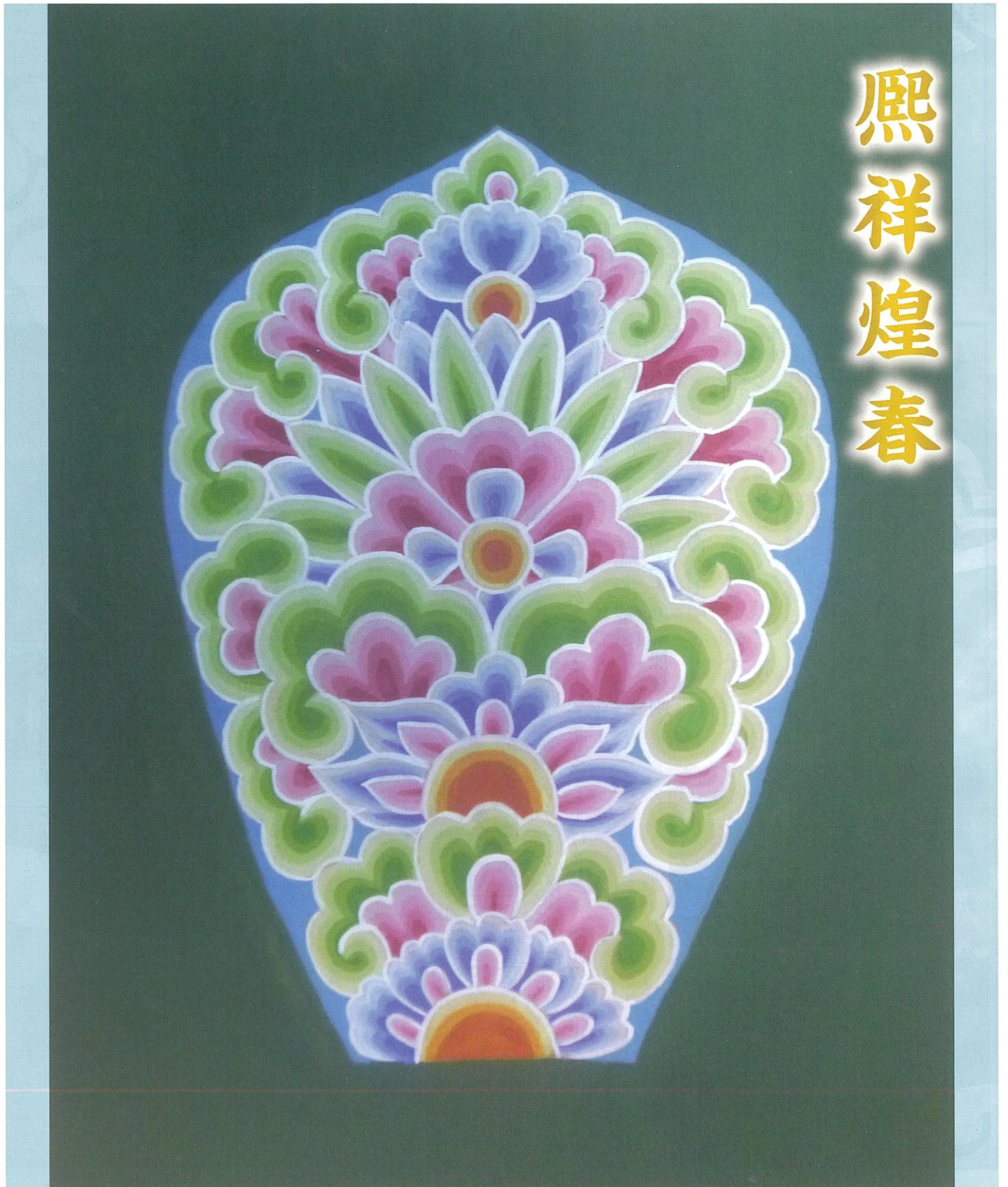


題字 / 弘法大師



高野山真言宗
備福山正智院 駕龍寺

住所 〒710-0042 岡山県倉敷市二日市600
電話 086-421-5631
発行人 富山義賢
ホームページ <http://www.karyuji.jp/>



熙
祥
煌
春

新年を迎えて

新年おめでとございます。

謹んで平成三十一年の初春のお慶びを申し上げます。

天皇陛下 皇后陛下におかせられますは、常に国民を思召されて頂いてい
ることは国民等しく感激する処であり、聖寿の万歳と皇室の弥栄、我が国
の悠久なる発展を御本尊ならびに弘法大師御宝前にお祈り申し上げます。

さて、聖上には今春には御譲位が予定されており、今年の新年一般参賀
も今上陛下のお出ましになる最後となることに一抹の寂しさを感じつつ、御
即位三十年の佳節を迎えるにあたり、これまで営々と国民に寄り添ってこ
られた御姿を拜しつつ、大師末徒として鎮護国家、玉体安穩を至心に祈る
ことを改めて誓うものであります。

昨年の日本は、これまで災害が少ないといわれていた岡山県も未曾有の
大洪水に見舞われ、全国各地でも大きな地震や台風などが起こり、自然
の驚異を目の当たりにした年でした。昨今は、世界的な異常気象が日常
的に起こっています。このような大自然の脅威に遭うことにより、我々人間
は無力であること、そして日々何事もなく生活を送れていることが本当に
有難いことだと気付かされます。

昨夏の真備町を中心とする水害以降、現在でも全国からボランティアの
方々をはじめ、多くの方が物心両面の支援をしてくださっています。しかし、
中にはボランティア等の支援活動をしたくても様々な事情でそれが出来ず
忤怩たる思いでおられる方もたくさんいらっしゃるでしょう。しかし、そんな
時に肝要なのは今自分に出来ることにベストを尽くすことでもあります。

私と同郷の歌手、松山千春さんは
知恵がある人間は知恵を出そう
力があるやつは力を出そう

備福山 正智院 駕龍寺 住職

権中僧正 富山 義賢



汗をかけるやつは汗をかこう

金があるやつは金を出そう

私何も出ないんですってやつは元気だそう

元気も出ない奴は・・・

祈れ！！

と仰っていました。

物質、情報等々が溢れかえっている今の時代は、この『自分のするべき事』
は何なのかを見失いがちです。水が高所から低い所へ流れていく様に、素直
な心で本来の自分を見つけていくことが大切になります。

寒い日々が続きますが、皆様方にはご自愛いただきまして、ご本尊はじめ
諸仏諸尊、お大師様の御加護をいただかれつつ、この新しい己亥の年がより
佳き年でありますようご祈念申し上げます、年頭の御挨拶いたします。

南無観世音菩薩

南無大師遍照金剛

南無大明神

南無當山鎮守

合掌

謹賀新年

高野山真言宗 駕龍寺

住職 富山 義賢

寺族・徒弟・職員 一同
責任役員 那須昭文 檀徒総代 大島 詔政

小原惣一郎 藤原喜久男

藤原金一 藤木達夫

檀徒総代 藤原公男 稲田起一

小野 登

宗教法人駕龍寺 総代・役員交代

任期満了に伴う駕龍寺総代役員交代により、八月五日、駕龍寺本堂で新任総代九人の就任式が行われた。任期は四年間。

駕龍寺の運営を担う新体制は、総代・責任役員に那須昭文(加須山)、小原惣一郎(五日市)、藤原金一(有城)、総代に藤原公男(有城)、小野登(二日市)、大島詔政(茶屋町)、藤原喜久男(帯高)、藤木達夫(有城)、稲田起一(加須山)の各氏が任命された。

この日、欠席者を除く出席の七人は、御親論奉読の後、富山義賢住職Ⅱ代表役員より総本山金剛峯寺からの辞令を受け取り、全員で「般若心経」「南無大師遍照金剛」「南無大明神」「南無当山鎮守」を唱和。富山住職は「一本の矢は折れても、三本の矢は折れない。新総代の皆様には今後、無理難題をお願いするが、一致団結して沢山の課題に励んでほしい」と希望。総代で責任役員の小原氏は「この度の役員人事は世代間のバランスがとれており、総代一丸となって全力で駕龍寺を支えていきたい」と語った。

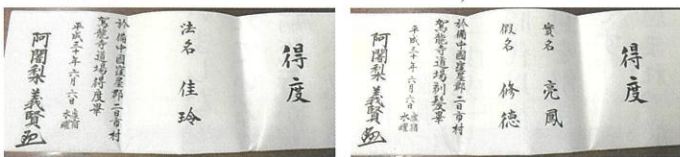


得度式を開筵

駕龍寺では六月六日、得度式が行われ、住職の長男修徳君と夫人の奈緒美さんが僧侶として仏門に入りました。

得度とは、僧侶入門の儀式のことで、剃髪し戒を守ることを誓約し、僧名を与えて頂くもの。この儀式を受けることで僧侶の仲間入りになります。得度はいわゆる出家の儀式であり、古来では肉親との縁を断って修行に入る世間からの別れの儀式でありました。現在は肉親との縁は切らずとも、仏教徒として生活することを決意する大切な儀式です。

朝早く「丁字風呂」で身を清めた後、白衣に着替えて本堂の外陣に着座。駕龍寺役員、親族らの見守る中、戒師で師僧の富山義賢住職から一人ひとりにかみそりを当てる「剃髪(はつ)の儀」などを受けた後、別室に移り先輩僧侶の手で髪を少し切りました。外陣に戻って真新しい法衣とそれぞれ修徳亮鳳・佳玲の僧名を授り僧侶としての第一歩を踏み出しました。



得度を希望される皆さまへ

お問い合わせが多いので、僧侶を志す皆さんからのご質問にここでお答え致します。

ごく簡略に述べますと、僧侶になるにはまず師僧について「得度」という儀式を受けることとなります。師僧と弟子との約は生涯違ふことなく続きます。「得度式」は、阿闍梨であるお師僧様から戒律や僧侶としての名を授かり、仏門に入る儀式です。駕龍寺では国籍や老若男女の分け隔てなく得度式を執り行います(ただし、高野山真言宗では、小学生未満・国籍や戸籍が不明な方の出家(得度)は認めておりません)。

しかし、この儀式を受けたからといって将来絶対に僧侶にならないといけないという拘束力を持つものではありません。普段の生活の中で仏教の教えを大切に生きていくという意味で得度を受けていただくのです。

また、得度を受けたからといって一人前の僧侶になったわけではありません。あくまでも入門の儀式であって、一人前になるためには以降数々の修行を乗り越えなければなりません。一人前の僧侶になるには約二年かかります。

ご相談、詳しいお問い合わせは住職まで。

団参報告

一月二十九日～三十日 (伊勢神宮・京都)

毎年恒例の参拝旅行を一月と十一月の二回実施しました。
 一月二十九日から一泊二日の日程で、国民の総氏神である伊勢神宮へ
 初詣を兼ねて参拝しました。



二十四名の参加者は穏やかに晴れた冬日
 和のなか、外宮に到着。伊勢神宮崇敬会
 お計らいにより、崇敬会職員の広江晴基さ
 んが宮域を丁寧に案内してくださり、参加
 者は興味深く説明に聞き入っていました。
 御垣内特別参拝と御神楽奉納の後、内宮
 に移動。杉木立神路山のふもと、清流五十
 鈴川のほとり、御白石の御垣内での特別参
 拝の後神楽殿で御神楽を奉納。優美な雅楽
 と倭舞と人長舞に感動し、参加者一同で新
 年を寿ぎました。

神宮崇敬会の宿舎である神宮会館で美味
 しい料理と和やかな時間を過ごし、翌日は
 京都に向かい真言宗十八本山のうち、大覚
 寺と仁和寺、智積院の三ヶ寺を参拝しまし
 た。

十一月七日 (京都 大覚寺ほか)

秋の参拝旅行は真言宗十八本山めぐりの三回目として、京都の泉涌寺
 と東寺に加えて、本年六十年に一度の戊戌開封法会が行われている大覚

寺への参拝を行いました。

大覚寺で行われているこの行
 事は、飢饉や疫病流行が相次い
 だことを受け八一八(弘仁九年)、
 嵯峨天皇が一文字ごとに三度礼
 拝しながら写経した故事にちな
 むもので、同年が「戊戌」であつ
 たことから鎌倉時代以後、六十
 年ごとに写経の封を解き法要を
 営んでいるものです。

当日は好天に恵まれ、嵯峨天皇の他、後光厳天皇・後花園天皇・後奈
 良天皇・正親町天皇・光格天皇の
 勅封般若心経も拝観することがで
 き、紅葉には少し早かったものの、
 嵐山の風景と泉涌寺の菊花展、東
 寺の五重塔の初層特別拝観など、
 晩秋の京都を堪能した旅になりま
 した。



来年の第一回目は四月十日(水)

十八本山めぐり第四回 春の京
 都(勸修寺・随心院・醍醐寺他)
 を予定しております。ぜひご参加
 ください。詳細は後日ご案内いた
 します。

備福山小史 平成三十年

修正会 一月一日

元日午前零時より、本堂において一年初めの行事である修正会が厳修されました。除夜の鐘を搗きおえた参詣者は、順次本堂に入室、住職より年頭の挨拶ののち、一人一人が一年間の無病息災、開運招福を祈って洒水加持を受けられました。

お加持を受けた後は、お屠蘇を拝戴し吉祥宝来等を授与されました。

正月とは本来、その年の豊穰を司る歳神様をお迎えする行事であり、一月の別名です。現在は、一月一日から一月三日までを三が日、一月七日までを松の内、あるいは松七日と呼び、この期間を「正月」といっています。この行事は「正月」月に「修」する儀式であることから修正会と呼ばれます。もとは、礼仏して罪過を懺悔することにより、除災招福・五穀豊穰・国家安穩を祈る、悔過と呼ばれるものでした。「お水取り」で有名な東大寺修二会も、これに相当します。

節分会 二月三日

立春を翌日に控えた二月三日、午後三時より本堂内陣において、星供曼荼羅を奉祠し、節分法会が厳修されました。

約二十五名の檀信徒が参詣。各人の北斗七星・十二宮・九曜二十八宿の星をまつり、除災招福・福寿増長を祈念しました。法会后、吉例豆まきを年男女の方の手により行い、帰りには恵方巻の接待を受け、寒中のひと時を和やかに過ごしました。



開運星祭祈念 「星供」

天体の動きは人の営みと密接に関連すると古来より考えられてきました。

密教占星術では「人の営みは、生まれながらに定まる〈本命星〉と毎年巡りくる〈当年星〉のもとにある」と考えられています。〈本命星〉は、生まれた年の干支により七星(貪狼星、巨門星、禄存星、文曲星、廉貞星、武曲星、破軍星)で成り立つ北斗七星のいずれかに定められ一生変わらないとされています。また、〈当年星〉は毎年巡りくる年々の吉凶を左右するとされています。

当山では、年の変わり目の節分と立春の両日星供養が執行されます。星供養は祭壇に北斗七星が描かれた星曼荼羅、その年の諸星と全国から寄せられた開運星祭祈念簿を祀り、星回りの悪い年は悪事災難から免れるように、星回りの善い年はより善い一年となるように祈願します。

世話人総会 五月二十日

当日、午後四時より総代ならびに各地区を代表する世話役が駕龍寺客殿に参集、平成三十年の総会が開催されました。

冒頭、御法楽として般若心経唱和の後、住職の挨拶に続き総代会代表の挨拶。事業報告、会計報告等を審議、監査報告ののち、全議案を意義なく承認。

その他質疑応答ののち、御宝号七返の御法楽を以て閉会。午後五時前散会となりました。

盆棚経 七月三十日〜八月十四日

恒例の盆棚経が約二週間に亘って御修行されました。年々暑さが増す中、住職以下四名の僧侶により期間中、瀬戸内市を皮切りに、岡山市内、浅口市、美星町、高梁市を含め、約七百六十件の檀家宅にお盆の供養に上がりました。

毎年、棚経期間中は各御家庭の皆様、地区世話役の皆様には格別のお心遣いをいただき、暑い中大変お世話になっております。紙上を借りて厚く御礼申し上げます。



また、八月十三日から十五日までは、盆供として本堂に精霊檀を設け、十三日の夕刻に当山先師と全檀信徒各家のすべての精霊をお迎えし、懇ろに御供養を申し上げました。本堂右の脇間に三段の机が置かれ、位牌等が飾られます。写真の中段には水盆に入れられた板塔婆がありますが、歴代住職とその年初盆を迎えた檀信徒の霊名が書かれています。左の写真を見ますと駕龍寺の場合は位牌とともに先師の「肖像画」(軸)が掛けられます。お供え物はたくさんありますが、必ず「そうめん」を差し上げるのが習わしとなっています。またお膳も用意し、その内容は生きている方に差し上げるのと何ら変わりはありません。

檀信徒総供養大施餓鬼会 八月十七日

お盆も明けた八月十七日、午前十時より駕龍寺本堂において毎年恒例の檀信徒総供養大施餓鬼会が厳修されました。

法会では平成三十年六月末日までに初盆を迎えられた精霊のご家族ご親族をはじめ、多数の檀信徒の皆様が参列され、富山義賢住職導師のもと倉敷市羽島の法輪寺住職田中良全僧正、大阪府摂津市の金剛院松政暁道僧正の御出仕により読経の響く中、参列者は焼香して、各々志すところの精霊の増進菩提を祈りました。

駕龍寺では開山以来、多くの精霊の御供養を申し上げております。毎年八月十七日はこれらすべての精霊に対し、施餓鬼供養を致します。普段お付き合いのある寺院でも限られた方に御出仕いただいて、施餓鬼供養を致しますことにより、仏さまの世界にいらっしゃいます、すべての精霊に功德を施し、仏徳をお積みして差し上げます。

法会后奉納行事として、女流和太鼓奏者の原田嘉子さんによる供養の和太鼓演奏と、お斎として本堂前のテントではそうめんの接待が行われました。



帯江小学校

六年生が来山

十一月十三日



十一月十三日、地元の帯江小学校の六年生二十五名が、郷土の歴史に触れる総合学習の一環「探検・発見・帯江さ」として駕龍寺を訪れました。当日は浅原校長先生はじめ担当先生の引率のもと地域学習の協力者、北川小四郎氏とともに駕龍寺を訪れ、住職から寺の歴史や駕龍寺の寺子屋が帯江小学校の基礎になっていること（明治十三年 帯江小学）などの説明を受け、興味深く聞き入っていました。

駕龍寺で見聞を広めた後は、次の目的地である一王子神社に向かいました。

酒樽観音大祭 大般若経転読法会

十一月十九日

十一月十八日午前十時より、晩秋の晴天のもと本堂において恒例行事の酒樽観音大祭大般若転読法会が厳修されました。この行事は収穫の秋を迎え、農作物の実りと食に対する感謝を捧げ、檀信徒の家人安全と福寿増長を祈るために、行われる行事です。

当日は大般若法会の本尊として正面に「般若十六善神」「高野明神影向図」「弘法大師御影」の三幅の軸と、酒樽観音の御姿を写した掛け軸が奉掲され、富山住職導師のもと結衆ならびに法縁寺院七口を職衆に、御導師に続いて職衆が大



般若経六百巻を次々に転読しました。その間参列者には大般若経理趣分によるお加持が行われ、一人一人が般若の梵風を受けて、それぞれの心願の成就を祈りました。

法会後には、奉納行事として古今亭菊志ん師匠による落語の口演が催され、師匠の巧みな話芸と情景描写にしばし日常を忘れ、堂内には大きな笑い声があふれていました。終了後にはこの日にしか受けることのできない大般若経の御祈祷札と加持酒・御供物、お接待の赤飯などが手渡されました。



今年の日程は**十一月十七日**日曜日です。皆様お揃いでお詣り下さい。

奉納御礼

新穀奉納 もち米三十キロ

藤原通博殿《倉敷市粒浦》

尚、奉献頂きましたお米は、大般若會のお接待の赤飯の料として使用させて頂きました。毎年の御奉納ありがとうございます。

ここに謹んで御礼申し上げます。



年末年始のご案内

新年の始まりを 駕龍寺で迎える

新年初詣のご案内

過ぎ行く一年を振り返り、来たるべき新年が素晴らしい年でありますように、あなたらしい一年の出発を。皆様のご参詣、心よりお待ちしております。大晦日から元日にかけて各種法要、御祈願を行います。

除夜の鐘

大晦日の午後十一時四十五分、住職の搦く一番鐘より順に、新年を駕龍寺で迎えようとする方々が鐘を鳴らして心身清浄をお祈り致します。

除夜の鐘待遇

本堂内にて御屠蘇拜戴・吉祥宝來・干支飾り・お供物境内テントにて、御神酒・甘酒等の接待
※数に限りがあります。予めご了承下さい。
※お問合せは駕龍寺まで



新年初詣・修正会（しゅしゅうえ）

除夜の鐘が境内に響き渡る中、午前零時より本堂におきまして皆さんとともに般若心経など「修正会」の御法楽をお勤め致します。

修正会にお参りされた方には、ご本尊御宝前において特別に祈願した法水を灌ぐ、洒水のお加持（心身を清める作法）をお一人お一人にお授け致します。

※本堂へのお参りは大晦日より元日の午前一時三十分まで。

※ご参詣の方が大勢いらっしゃいますので、お越しの際は十分にお気をつけて、まわりの方へのご配慮も併せてお願い致します。

尚、正月三が日の本堂内拝は午前七時開堂、午後四時閉堂とさせていただきます。

ご自由に堂内にお上がりになり、ご焼香、お屠蘇等をお受けください。（授与品が堂内がない場合は、頒布終了です。）

新しい年を迎え、一年を振り返り思い新たにお参り下さいますよう、皆様のご参詣心よりお待ちしております。

初観音・浄焚会（じょうほんえ）

初観音のお勤めに引き続き、駕龍寺にお納め頂いた、お正月の注連縄・古い御守・御札・お位牌などを供養し、境内浄焚場にてお焚き上げ致します。

【日時】一月十七日十時より

【場所】初観音法会・本堂

浄焚会・境内浄焚場前にて

【受付】随時受付

※お勤め後、ぜんざいのお接待があります。

お知らせ

十二月二十八日から一月七日までは年末および年始（松の内）につき、年忌法要や墓前経等の仏事はお休みさせていただきます。（通夜・葬儀についてはこの限りではありません）

奉納御礼

本年も、御本尊御宝前に新米の献穀をはじめお盆には蓮などの献花ならびに季節の農産物、献酒、献菓など多くの篤信の方々に真心のこもった品々を御奉納いただきました。皆様の厚きご信援に心より御礼申し上げます。

合掌

日頃の感謝を込めて、御本尊やお大師様へのお供えをおすすめします。

御奉仕御礼

駕龍寺の境内美観維持のために、毎月境内奉仕の皆様はじめ、季節季節に個人的に草刈りや伐採に汗を流していただいた方々に心より御礼申し上げます。

合掌



開運星まつり祈念 「星供」のおすすめ

節分の当日に厳修いたします星供（星まつり）は、弘法大師伝来の真言密教の秘法をもつて、その年の、人それぞれの運命をつかさどるといわれている九つの星を供養し、みなさま方の無病息災、一家繁栄、開運満足など諸願成就を祈願するものです。

新しい年を迎えるにあたり、一年間のお幸せを得られますように星まつりのご祈願をお勧めいたします。

当山では、二月の節分に皆様の「当り星」をお祀りし、ご祈禱した後に「お札」を授与させていただきます。

人は皆その年々の気を稟けて生まれるものです。その星が別紙の吉凶表の如く年々順々に巡って善い年と悪い年が出来るのです。

星まつりというのは節分にその年の当り星を祭って悪い年は悪事災難を免れるよう、また善い年は一層善くなるようお祈りして七福即生七難即滅の祈禱をするものです。

誰しも皆々その年の無事を願い、幸福を一人でも多くの人々と頌ちあって楽しく暮らしたいものです。ご家族様、お知り合いの方々にもお勧め下さいまして、別紙申込用紙の要領にて、一月末日までにお申し込み下さい。

皆と喜びを共にするのは仏さまの御教えであります。

お守り作りのご案内

平成三十一年の干支は亥年。亥年の守り本尊は、阿弥陀如来です。この阿弥陀如来をご自分で描いて、ご自分のお守りを作りませんか。下絵をなぞるだけの、簡単な仏画（写仏）です。

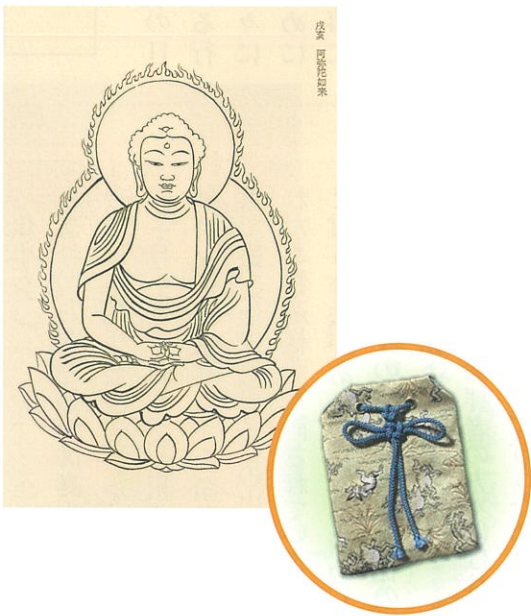
お姿が完成した後は、一体一体住職が梵字を書き入れ、開眼をして下さいます。

上記仏画教室に参加されていない方でも、どなたでもご参加いただけます。お誘いあわせの上、是非お越しください。

■日時・一月二十五日（金） 13時～15時頃

■参加費・一、〇〇〇円（お守り作りが初めての方は、材料費別途一、五〇〇円）

■持参物・すずり・墨（墨汁不可）
■申し込み締切・一月二十日（日）



仏画への誘い

一昨年一月より、月一回お寺で仏画教室を開催しています。様々な仏様のお姿をなぞって描く、簡単な写仏です。

ただ一心に筆を走らせる。仏さまと向き合う時間は、自分自身と向き合う時間でもあります。あつという間の二時間です。ご自身の心にある仏性を見つめてみませんか。

毎回十数名の方が参加してくださっています。初めての方ばかりです。ご興味がおありの方は、どうぞお気軽にお問い合わせ、ご参加ください。

■日時・毎月一回（不定期） 13時～15時頃

■参加費・一、〇〇〇円（材料費別途）
■持参物・すずり・墨（墨汁不可）



新しい行事のご案内

駕龍寺では長きにわたり、毎月十七日を観音講の日と定め御本尊聖観世音菩薩さまに報恩感謝を捧げる行事を行ってまいりました。この度、より多くの方々へ仏教の行事に触れ、駕龍寺と親しんでいただくために毎月特別な法会を執り行うことにし、一部の行事に月例の観音講を合わせて厳修することといたしました。ここでは、今年から**十七日でない日**にお参りいただきたい行事につきまして、御案内いたします。

◆常楽会 (じょうらくえ) 二月十五日 午前十時

別名涅槃会 (ねはんえ) とも呼ばれます。お釈迦さまの入滅をお偲びする法会で、鐘樓の鐘を合図によって始められます。

この儀式は物語に節回しをつけた講式 (こうしき) と呼ばれる声明を中心に、お釈迦さまを慕う法会が営まれます。

◆春季彼岸会 (しゅんきびがんえ) 三月二十四日 午前十時

彼岸供養のため、春は三月、秋は九月共に彼岸中いずれかの日に、本堂において滅罪生善のため厳修されます。先祖代々ならびに志す精霊のために経木塔婆 (薄い木の塔婆) を立てて、御詠歌をお唱えして御供養します。

◆弘法大師旧正御影供 (こうぼうだいにしきゆうしょうみえいぐ) 旧曆三月二十一日 (今年は四月二十五日) 午前十時

お大師さま、御入定 (ごにゅうじょう) の三月二十一日の旧曆に当たる日に、「旧正御影供」を執り行います。

※この行事は旧曆で行うため、毎年日程が変わります。

◆仏生会 (ぶつしょうえ)

旧曆四月八日 (今年は五月十二日) 午前十時

仏生会 (ぶつしょうえ) とは「花祭り」としても親しまれ、お釈迦様の御誕生をお祝いする法会です。法会には「仏生会講式」を奉読します。これは、物語のようになり、お釈迦様の御誕生から涅槃までを独特な節に乗せながら讃歎していきます。また、杉の葉で盛った「花御堂」の中には、御誕生時のお姿をされたお釈迦様が安置されています。「灌沐 (かんぼく)」と言う作法があり、法会の締めくくりとして当日参加されたお参りの方々にお釈迦様の頂きに「甘茶」を注いで供養をしていただきます。

また、当日参拝者の方々には甘茶が振る舞われます。※この行事は旧曆で行うため、毎年日程が変わります。

◆弘法大師降誕会 (こうぼうだいにこうたんえ) 六月十五日 午前十時

お大師さまの御誕生日をお祝いします。真言宗にとつてとても大切な日です。

◆諸病封じきゅうり加持祈祷会 (しよびょうふうじきゅうりかじきとうえ) 七月二十一日 午前十時

梅雨が明け、本格的な暑さをはじめ土用の丑に近い日に、きゅうり加持を行います。体力が衰えたこの時期に、暑い夏をつつがなく乗り切るため、当病平癒や身体健康を祈願するのがきゅうり加持です。お大師さまがひろめたと伝わる秘法です。

駕龍寺では、願主のお名前と、秘密の呪文を書写してきゅうりに病苦を封じ込めます。そして五大明王の前にお供えして、息災を祈る祈祷が行われます。お参りされた皆さんの読経の功德がわれわれにもたらされます。そして祈祷により供養されたきゅうりは法会の後に土にもどされます。願主には護符が授与されます。

また、当日この加持祈祷にご参加いただいた方には「お加持」があります。お加持とは、清浄な水 (閻伽水)

お願い
「参与会に
お入りください」

参与会とは高野山真言宗参与会といい、お大師さまのファンクラブとして、その教えを伝え広める活動を行います。

会員になれますと、会員限定の特典や高野山研修会・地方研修会に参加していただけます。

また、いち早く「高野山教報」にてお山の情報をお届けします。

お大師さまと尊いご縁を結ばれました皆様へ、この良縁を末永くお続けくださいますよう、ご協力をお願いします。

会員様の会費は高野山を美しく保つため一人でも多くの方が気持ちよくお参り出来る様、また各種団体への支援活動など宗団内外問わず有効に利用させていただきます。

【まなぶ】
お大師さまのお説きになられた教えを体験・体感していただきます。

【つなぐ】
全国二万人の会員が「現在の高野山」となって、お大師さまの教え・精神を伝える活動をしています。

【まもる】
尊厳の護持を理念に皆様が無心して高野山にお参りしていただける環境づくりをバックアップしています。

を頭に灌ぐこと)で仏さまの功德をお授けするものです。
(きゅうりは当山が用意いたします)。

◆秋季彼岸会(しゅうきびがんえ) 九月二十三日 午前十時

お彼岸供養のため、春と同様に秋はお彼岸の中日(秋分の日)に滅罪生善のため厳修されます。塔婆供養があります。

これまで毎月十七日をお参りの日と覚えてくださっていた皆様には、大変ご不便をおかけいたしますが、月々に楽しんでお参りいただけるよう、寺内一同尽力いたしますので、お練り合わせお参りいただき、変わらぬご信援をお願い申し上げます。

中食等の御接待も、これらの行事に合わせて差し上げます。

人生の節目は駕龍寺で

七五三・結婚式・初参りなど、お寺で祝おう人生の節目

七五三といえば、神社を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、駕龍寺では七五三に限らず、人生の節目のいろいろなお祝いの御祈禱も受け付けています。

そもそも真言宗は現世利益・加持祈禱が得意分野の宗派です。七五三だけではなく、赤ちゃんが生まれた時の初参り(初参式)や、仏式結婚式など、「一緒に



七五三祝禱



土公供(地鎮祭)

祝い、喜んでくれるお寺」として駕龍寺をお役立てください。

昨年はご縁があつて檀家様の新宅の地鎮祭を勤めさせていただきました。

地鎮祭は真言宗では土公供(どこうく)と呼び、土地の上に家屋などの建物を建設するにあつて事故や魔障がないように祈る法要のことです。その土地の有無両縁の諸精霊の成仏を祈り、諸々の神仏に感謝の法楽を捧げ、邪気の退散・吉祥清浄を祈念する、とても大切な儀式です。

地鎮祭というと、どうしても神職様のイメージが強く、住宅メーカーさんでも知らない人が多いようですが、仏式でも執り行うことが出来ます。数をこなしている神主様より、どうしても手間やお金、時間がかかってしまいますが、その分味わいもあります。

みなさまも是非機会がございましたら、ご予算やお考えなどをご家族で話し合つた上で、それぞれにあつた思い出に残る儀式となるよう、また、一生に何度もないお家の新築の節目に、諸仏諸尊・諸天善神のご加護を願つてみるのは如何でしょうか。

駕龍寺でお受ける人生儀礼

子宝・安産・命名、初寺詣り、七五三詣り、入学・受験・就職の祈願、仏前結婚式、厄除け、地鎮祭、上棟式、落成式、還暦・米寿などの賀寿、他ご相談、お申し込みはお気軽に駕龍寺まで。

新入会員
藤原金一(有城)
藤原恒久(有城)
藤木達夫(有城)

●ファンクラブに入会すると、高野山真言宗管長(参与会総裁)より委嘱状をお届けし、参与袈裟と参与バッジを授与致します。また、参与袈裟をつけて高野山にご登山くだされば、諸堂、靈宝館の内拝が無料となり、金剛峯寺に参拝されると、記念品としてお線香を贈呈いたします。月二回発行の「高野山教報」をお届けし、高野山真言宗が発行するパンフレットなど印刷物をその都度お届けします。
●年会費 一万円
この年会費は、お大師さまのみ教えを一人でも多くの人に知っていただくための広報活動に役立てられています。



植樹 啓発看板 休憩用ベンチ 門前スロープ 境内整備

駕龍寺恒例法会

時間の記載のない行事は午前10時より

- 修正会 一月一日午前零時
- 初観音・浄焚式 一月十七日
- 節分会 二月三日午後一時
- 常楽会 二月十五日
- 春季彼岸会 三月二十四日
- 弘法大師旧正御影供 四月二十五日
- 仏生会(花まつり) 五月十二日
- 弘法大師降誕会 六月十五日
- 諸病封じきゅうり加持祈禱会 七月二十一日
- 檀信徒総供養大施餓鬼会 八月十七日
- 秋季彼岸会 九月二十三日(秋分の日)
- 諸願成就酒樽観音大祭 十一月十七日
- 納観音 十二月十七日
- 除夜会(除夜の鐘) 十二月三十一日午後十二時四十五分

月例行事

- 観音講 毎月十七日 (二・三・六・七・九月は自由詣り)
- 大師講 毎月二十一日
- 仏画教室 毎月第二金曜日午後一時
- 境内清掃奉仕 毎月二十八日
- 年二回参拝旅行実施

※仏画教室と境内清掃は日時が変わることがあります。

※御供養・御祈禱随時受付(要予約)

※いずれの行事にもお誘いあわせ、お気軽に御参詣ください。

投稿募集

皆様の疑問質問にお答えします お便りをお寄せください

福寿海では読者の皆様からの投稿を募集しています。皆様の宗教体験は日常生活で感じたことなどをお寄せください。また『お答えします』のコーナーでは、皆様から寄せられた疑問質問に、住職はじめその道のプロが回答させていただきます。どんな些細な内容でも結構ですので、いろんなご質問をお待ちしています。

平成三十二年 年忌繰出表

法事は御命日に、もしくは御命日に遅れないように計画致しましょう

命日の当日に法事が出来なければ、なるべくそれよりも前に日に行うべきだとうしきたりは、「人間はいい加減なものなので、いつでもいいとなると、どんどんおろそかになっていくから、当日にできなかつたり、土曜や日曜に執り行いたい場合は、命日より前にしなさい」と、昔の人は教えてくれています。命日を過ぎてから法事をしたら良くないとか、祟りがあるという意味ではありません。ですから命日を過ぎていたとしても、法要をしないでおくよりは、遅れてでもした方が供養になるのは確かですから、是非行つてあげてください。

一 周忌	平成三十年	逝去
三 回忌	同 二十九年	〃
七 回忌	同 二十五年	〃
十三回忌	同 十九年	〃
十七回忌	同 十五年	〃
二十三回忌	同 九年	〃
二十五回忌	同 七年	〃
二十七回忌	同 五年	〃
三十三回忌	昭和六十二年	〃
三十七回忌	同 五十八年	〃
五十回忌	同 四十五年	〃
七十回忌	同 二十五年	〃
百 回忌	大正九年	〃

《宛先》

郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業を明記の上、左記までお送りください。

〒七一〇〇〇四二 岡山県倉敷市二日市六〇〇

高野山真言宗 駕龍寺「福寿海」係

● Eメールの場合は info@karyujip.jp

※採用させていただいた方には駕龍寺より粗品を進呈させていただきます。

慧燈星懸

お正月といえば初詣、初詣といえばお賽銭。お寺に詣でも神社に参拝しても、お供えするのは共に賽銭である。賽銭とは、祈願成就のお礼として神や仏に奉納する金銭のことで、賽は神仏から福を受けたことに感謝して祭るの意味だという▼現在、法事の「御布施」などというように、お寺に奉納する金員を広く「御布施」という言葉で表すことが一般的になっている▼神道では「初穂料」という言葉が多く使われている▼布施はもとも「与えること」を指すターナという梵語であるが、貨幣経済の成立以前には、神社・神道と同じように日本のお寺・仏教も、我が国の稲作の歴史とともに時代を刻んできたのであるし、そのため神仏への奉納は当然のように現物、すなわち米・野菜・魚介などであった▼その「初穂」を第一に神々に捧げて感謝の意を示したのが神道の「初穂」である▼日本の仏教徒も多くはお百姓であったから、「御布施」の中には仏に捧げる「初穂」という認識があったに違いない▼時代を経るにつれて、現物と交換性を持つ金員が奉納されるようになり、現在ではさらにその傾向が強まって奉納・喜捨の行為は金銭で行うことが主流となった▼御香にかわる「御香料」、御供物にかわる「御供物料」という表現もその反映であろうし、現物を供えるときに、「真心を整えるように、金銭を祝儀袋・熨斗袋に入れ、「真心を込めて差し上げる」という古えからの慣習に思いを致しながら、「御布施」「御宝前」等と記して仏前などに奉ることが一般的な作法として成立したのである▼しかし、奉納や喜捨というような概念ではなく、単に金銭の遣り取りとしてのみ考える人たちは、こうした体裁などを考慮しない▼賽銭箱などは別としても、改まって仏前に進むような場合にも、あたかも対価を支払う行為として、しわのついている現金を差し出すような事例が見られるようになってきたという▼物々交換の時代以降、我々の経済活動における環境も変化している▼近い将来において現金を持たず行動する時代が来たとき、果たして「御布施」や「初穂料」はどのようなものか▼いかにノーキャッシュの文化が定着しても、神社仏閣に電子決済の端末機が置かれ、御布施や初穂料をカード払いなどでいう時代が来ないことを願いたい▼神仏に対しても人に対しても「奉る」という意識は大切にしたいものである▼